

## Feature Articles

放送外事業への  
チャレンジ

- 10 闇 (MBSメディアホールディングス)  
12 あっとほおーむカフェ (スペースシャワーネットワーク)  
14 ICTVスマイル農場 (入間ケーブルテレビ)  
16 waiwai PLAY LAB (ケーブルメディアワイワイ)

## 18 「NAB Show 2024」視察レポート

Amagi / AWS / Harmonic / MediaKind / Vislink /  
グラスバレー / ソニー / パナソニック コネクト / 朋栄 /  
RIEDEL Communications / Blackmagic Design / Brainstorm

## Special Interview

- 6 小林信一氏  
ウォルト・ディズニー・ジャパン (株) バイス プレジデント パートナーシップ、ディズニープラス&チャンネル

## New Series

- 8 TOKAIグループの成長戦略 第2回:トコちゃんねる静岡

## Special Report

- 56 CRI視察ツアー「CRI-VISIT ローカル5Gゴルフ場実証実験」

## Series Articles and Columns

- 25 市民メディアの現場から ⑧ 取材・文/鈴木賀津彦  
26 ミュージックツーリズムの可能性 ④ 文/八木良太  
28 放送ビジネスの政治経済学 ⑧ 文/音 好宏  
30 世界のメディア曼陀羅華「『ケーブルテレビ2050』をイメージする」 ② 文/猪股英紀  
36 地産飛翔〜ケーブルビジネス関連動向(気になるトピック / 機器チェック!)  
40 挑み続けるフロントランナー「(株)秋田ケーブルテレビ」 ④ 取材・文/山添亮介  
42 アジア衛星TV & 宇宙ビジネス最新情報 ② 文/長瀬博之  
44 日本で受信可能なアジア衛星TV一覧  
50 自他傍和困我也(じたばたわいがや) ⑦ 文/穂積 融  
51 ワハハ本舗 喰始のエンターテインメントのツボとボツ ⑦ 文/喰 始  
52 Information 新作映画紹介 & Convention  
53 Official Information  
スカパーJSAT / 日本CATV技術協会 / 日本ケーブルラボ / CRI  
58 NEWS FILE 2024/4/1~4/26

## DATA

- 34 CS-CHANNEL RANKING  
64 定期購読のおすすめ  
65 購読オーダーシート

※福田 淳氏の「考えるメディア」は、今号もお休みさせていただきます。

## 〈読者の皆さまへ〉

「DATAページ」(各プラットフォーム別加入状況および業界動向データ、CS/BSバイテレビ接触率ランキングなどの掲載を今号も見送ることとなりました。上記各種データは、誌面には掲載しておりませんが、2024年5月10日に弊社HP (<https://www.satemaga.co.jp/>)にPDFにてアップしております。お手数ですが、こちらから閲覧くださいますようお願い申し上げます。

2024年5月10日

サテマガ・ビー・アイ (株) 月刊「B-maga」発行人 一瀬悦子 / 編集長 池和田一里



有料放送&VODビジネスがわかる! 新社会人にもオススメの一冊



## メディア融合時代到来!

### 【コンテンツ至上主義】視聴者が「選ぶ」メディアは?

多チャンネル放送研究所 + 音 好宏 (上智大学教授&多チャンネル放送研究所所長) 編著

急速に台頭してきた有料動画配信サービス(OTT)の利用実態や、その潜在的ニーズ等を明らかにするとともに、多チャンネル放送に与える影響、多チャンネル放送とOTTとの関係等を分析。メディア融合時代の多チャンネル放送の今と未来を読み解きます。

定価:2,200円(税別)

- 編著:多チャンネル放送研究所 + 音 好宏所長
- 編集・発行:サテマガBi
- 発行日:2016年12月25日
- ページ数:182ページ
- サイズ:A5判



※購入は大手書店、Amazon、サテマガBi HPにて

## CLOSE SHOT

### 宇宙ビジネス展示会「SPEXA」初開催!

4月24日(水)~26日(金)、東京ビッグサイトにて、宇宙ビジネス展示会「SPEXA(スベクサ)-Space Business Expo-」が初開催された(RX Japan(株)主催)。官民挙げて宇宙開発の重要性が増している今、同展示会は「宇宙ビジネスに参入したい/関心がある」人たちにとって最適なマッチングの場となった。

入口には、来場者の目を引く小惑星探査機「はやぶさ2」の実寸大模型がドーンと展示され、展示会場では合計83の出展者が最先端の宇宙技術やサービスを披露、宇宙ビジネスに直結する60以上のカンファレンスも行われ、いずれも満席の盛況ぶりとなった。

なかでも熱い注目を集めたのは、「宇宙実業社」のスカパーJSAT。1989年に日本の民間企業として初めて人工衛星を打ち上げて以来、累計35機、現在17機の衛星を運用。2022年4月には「宇宙事業ビジョン」を発表し、2030年までに1,500億円の成長投資を行うことを決定している。展示会では、次世代のフルデジタル衛星Superbird-9やSpace Compass社のHAPSの模型、衛星データを用いて斜面やインフラの変動リスクをモニタリングする「LIANA」をデモンストレーション、さらには静止軌道上に宇宙ステーションを構築するという将来構想「Yamato」を初お披露目して来場者を驚かせた。

また、小型衛星の製造・運用で高い実績を誇るアクセルスペース、小型SAR衛星の製造・開発のQPS研究所やSynspective、月面探査に挑戦するispace、持続可能な宇宙輸送手段の開発を進めるSPACE WALKERやPDエアロスペース、今年2月18日にデブリ除去実証衛星「ADRAS-J」を打ち上げたアストロスケール等々、今、注目の宇宙スタートアップが勢揃いした。

スカパーJSATの次世代衛星Superbird-9と宇宙ステーション「Yamato」 小惑星探査機「はやぶさ2」の実寸大模型

